

組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：文学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	
<p>①耐震改修工事に鑑みた教育体制への配慮 H.23年度およびH.24年度は、文学部諸施設のほとんどが入っている文法経1号館建物の耐震改修工事が行われる。教育面への影響に十分注意した配慮を行う。</p> <p>②学生サポート体制の充実 メンタルヘルス・サポート体制の充実(文学部メンタルヘルスカウンセラー、学生生活委員会を核とする体制、1年次生向けメンタルヘルス講義、教員用の学生メンタルヘルス・ガイドブックの充実等)、キャリア支援に関する基盤整備(就職先、取得資格、サークル活動に関するアンケートの整備・追加)、障がい者に対する学習等の支援(専門科目のノートテイク体制、教員志望学生の教育実習配慮等)など、文学部が直面する学生生活上の問題について独自の支援を行う。</p> <p>②国際交流の推進による新たな教育を構築する。 異文化理解教育、外国語教育に対する独自の取り組み実施(副専攻コース特別講義等)、外国人留学生と日本人学生との交流の場(懇談会、勉強環境)創出、交換留学の発展を目指した海外大学との新たな交流協定締結の準備などを推進する。(学生の留学については、ニュージーランド地震等を鑑み、一層の慎重かつ周回の配慮が必要である。)</p> <p>④学芸員資格制度の平成25年度大規模改正に対応する。 改正に対応して、必要な授業科目の設定、実習制度の充実、将来的な大学博物館設置構想の調査など、本課題に文学部が全学の中心的な役割を担う。</p>	<p>①耐震改修工事に鑑みた教育体制への配慮 H.23年度分工事(1号館西部分)への対応は順調である。教育面への配慮も、学生・大学院生の了承の下に十分に行うことができた。来る4月に、移転作業が行われる予定である。 なお、H.24年度は第2期工事が行われる予定であり、H.23年度同様、教育面への十分な配慮を行いたい。</p> <p>②学生サポート体制の充実 メンタルヘルス・サポート体制(文学部独自雇用のカウンセラーへの学生の相談・1年次生向けメンタルヘルス講義など)、キャリア支援(資格取得支援、アンケートなど)、障がい学生支援(個別支援会議などを通じた卒業論文指導体制、就職指導体制の確立など)を適確に進めた。</p> <p>③国際交流の推進による新たな教育を構築する 文学部は、英語圏だけでなく、その他の外国語圏との交流を進めている。英・独・仏・中の副専攻コースは、外国語習得とともに異文化理解に配慮している。特に、英語副専攻コースの改善のためのWGを作り、検討を始めている。 H.23年度に、文学部として、ドイツ・ボーフム大学との交流協定を新たに締結し、交換留学などを開始した。また、従来からのフランス・ポルドー第3大学、韓国・成均館大学などとの学生交流も順調である。</p> <p>④学芸員資格制度の平成25年度大規模改正に対応する H.25年度大改正に向けて、文科省への認可申請、学芸員資格担当教員の新規配置などの対応を進めている。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	
②-1 目標	
<p>①耐震改修工事に鑑みた研究体制への配慮 H.23年度およびH.24年度は、文学部諸施設のほとんどが入っている文法経1号館建物の耐震改修工事が行われる。研究環境への影響への配慮を十分に行う。</p> <p>②文学部共同プロジェクトの推進 第2期中期計画において学部として継続的に推進している複数のプロジェクト(「東西文化の交流」、「島嶼の生活」等)に財政的支援を行いつつ、研究活動の充実を図る。</p> <p>③研究成果の集約と整理 昨年度に引き続き、文学部教員のこれまでの研究成果(著書、論文、研究報告書等)を網羅的に収集し、資料室に整理して公開するとともに、それらのリストを作成する。</p>	<p>①耐震改修工事に鑑みた研究体制への配慮 H.23年度分工事(1号館西部分)への対応は順調である。研究体制への配慮も、教員・大学院生・事務職員の了承の下に十分に行うことができた。来る4月に、移転作業が行われる予定である。 なお、H.24年度は第2期工事が行われる予定であり、H.23年度同様、研究面への十分な配慮を行いたい。</p> <p>②文学部共同プロジェクトの推進 学部として継続的に推進している複数のプロジェクトに財政的支援を行いつつ、研究活動の充実を図った。複数のプロジェクトについて、研究成果報告書の発行、研究成果公開講演会などが行われた。</p> <p>③研究成果の集約と整理 文学部教員のこれまでの研究成果(著書、論文、研究報告書等)の収集・整理を続けている。資料室に関しては、耐震改修工事中のため、完成後のスペース確保に努力している。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	
<p>①各種公開講座の継続・充実・発展 昨年度に引き続き、文学部、社会文化科学研究科、全学および大学外の公開講座を継続・充実・発展させる。</p> <p>②研究成果を市民に公開する講演会・シンポジウムの開催 昨年度に引き続き、研究成果を市民に公開する講演会・シンポジウムを開催する。文学部主催のこのような企画には「常連」が形成されつつあるので、これらを地域との連携の核の一つとする。</p>	<p>①各種公開講座の継続・充実・発展 文学部「英語と日本人」、社会文化科学研究科「岡山の地域活性化」の公開講座を開催するとともに、全学、付属図書館、諸自治体などの公開講座との連携・講師派遣などを行った。</p> <p>②研究成果を市民に公開する講演会・シンポジウムの開催 学長裁量経費、学内COE、文学部長裁量経費などに基づく各種の講演会・シンポジウムを開催した。とりわけ、「花の空間」、「岡山から世界へ：国吉康雄」は、ベネッセ、廣榮堂など学外から多くの資金等援助を得ることができた。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
<p>いずれの目標も進行中であるが、次年度以降も着実な継続進行が必要である。とりわけ、平成24年度は、二年度期間にわたる耐震改修工事の完成を迎えるので、関係する目標に対して十分な配慮が必要となる。</p>	